不妊治療支援のための調査・研究事業における患者調査の結果について

１　調査の目的

今後の本県における不妊治療に関する制度の検討に活用するため、不妊治療が保険適用になったことにより、不妊治療患者の負担がどのように変化したのかを含め、患者のニーズを把握することを目的とする。

２　調査対象の範囲

奈良県内の生殖補助医療実施医療機関に通院中の患者

３　方法

奈良県内の生殖補助医療実施医療機関に依頼し、調査に同意が得られた対象者に調査票を配布し、紙面もしくはウェブで回答。

４　調査期間　令和５年９月４日～令和５年１０月３１日

５　調査結果

期間中に、不妊治療のために医療機関を受診した対象者　回収数：１１２

（１）回答者属性

性別　（人）

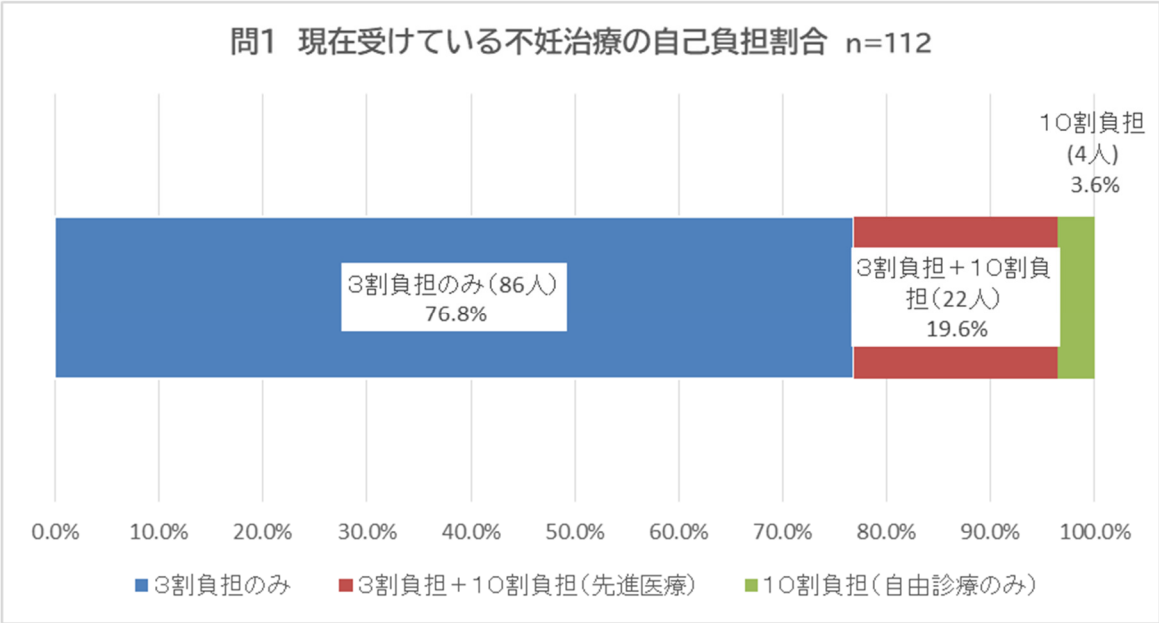
男性	1
女性	111
合計	112

年代　（人）

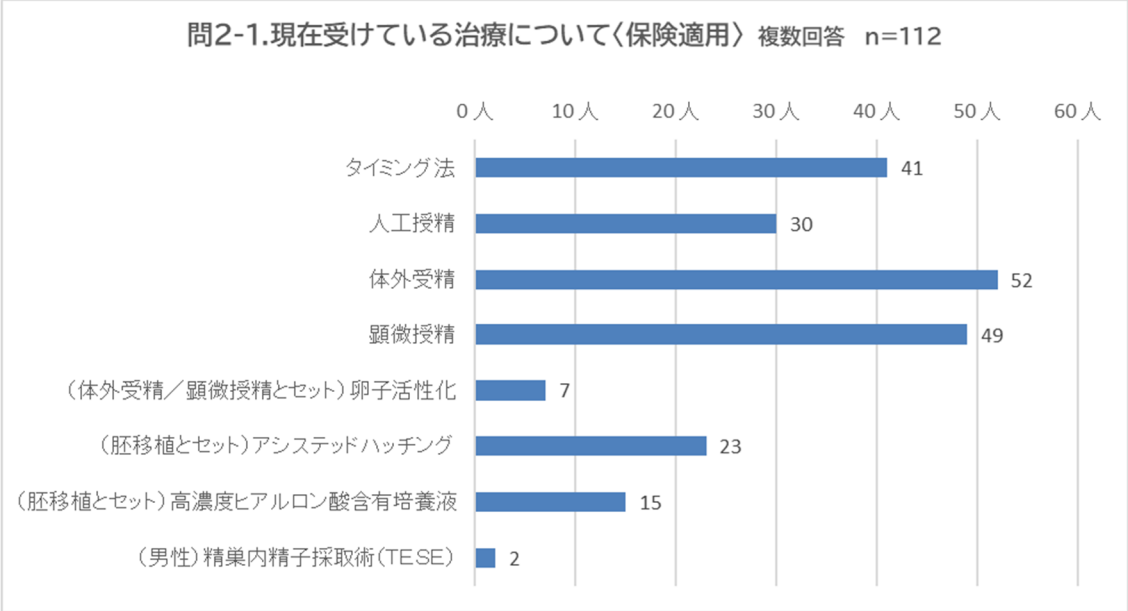
２０歳代	14	12.5%
３０歳代	72	64.3%
４０歳代	26	23.2%
合計	112	100.0%

（２）現在受けている不妊治療の自己負担割合

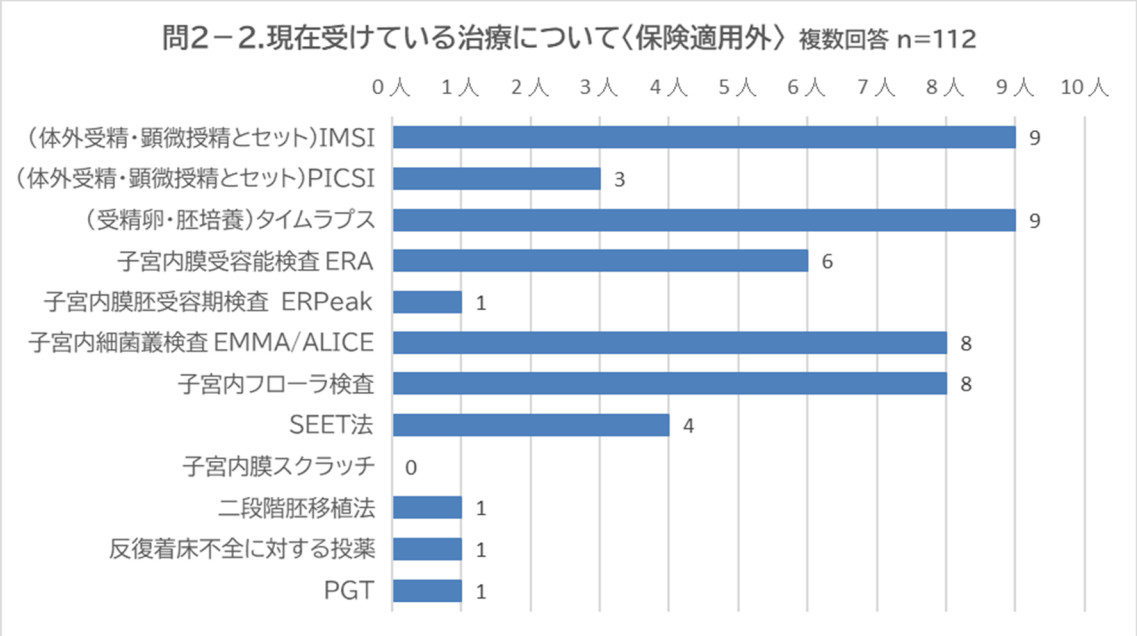
◎保険診療のみ（３割負担）が全体の８割弱を占める。



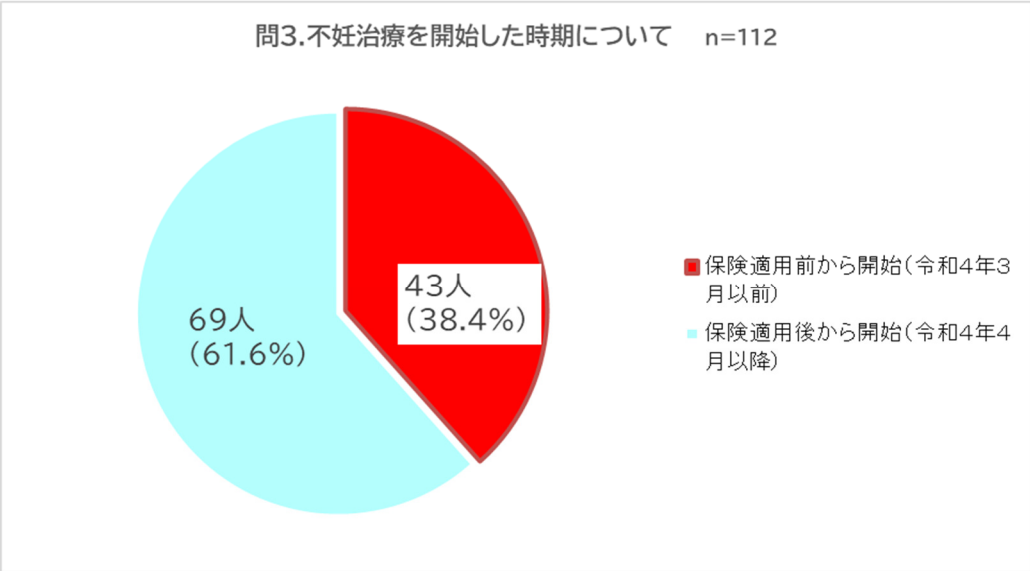
（３）現在受けている治療内容（保険適用分）
◎体外受精・顕微授精が多い。



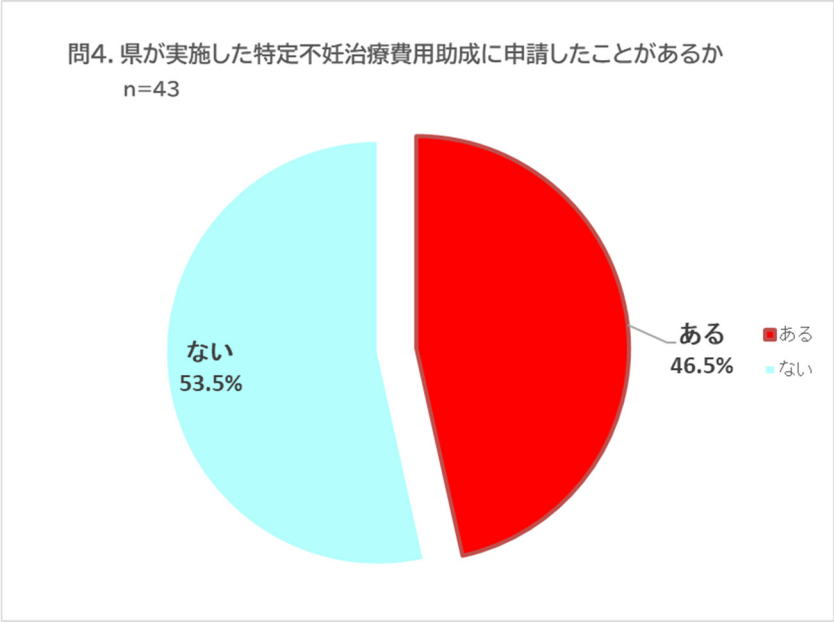
（４）現在受けている治療内容（保険適用外）
◎子宮内フローラ検査、子宮内細菌叢検査、タイムラプス、IMSI が多い。



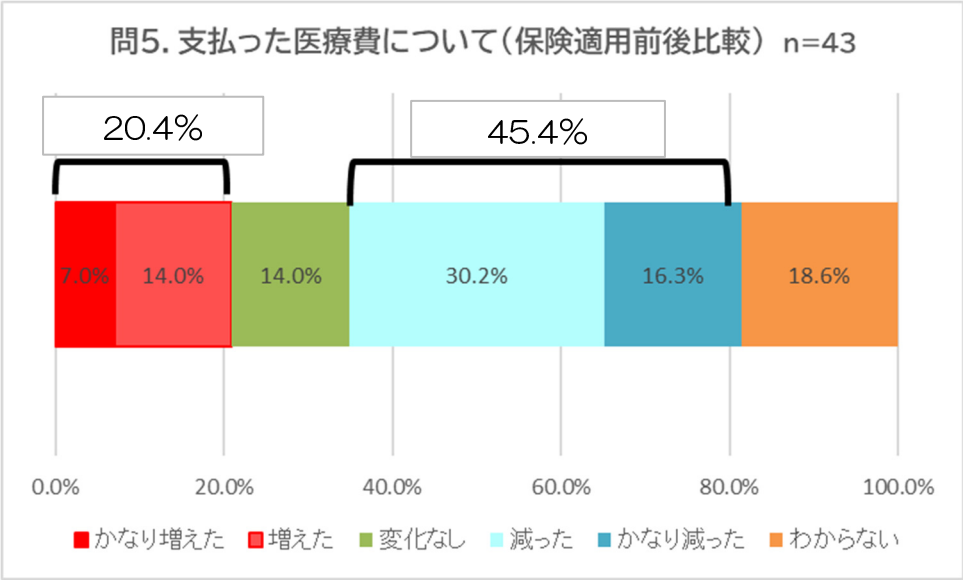
（５）不妊治療を開始した時期
◎61.6%が、令和４年４月の保険適用後に治療を開始している。



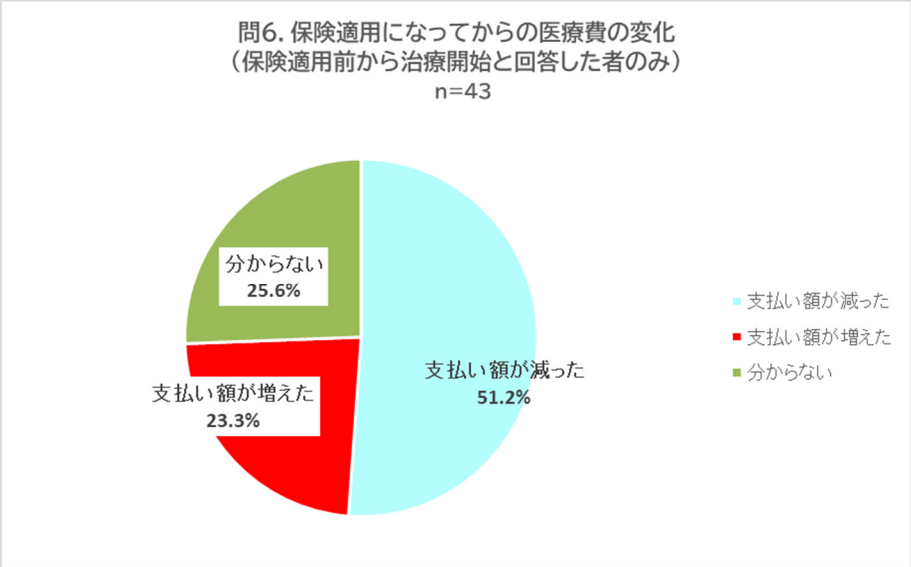
（６）県の助成制度の利用の有無（保険適用前から治療開始の人のみ）
◎保険適用前から治療をしている人のうち 47.9%が申請したことがあると回答。



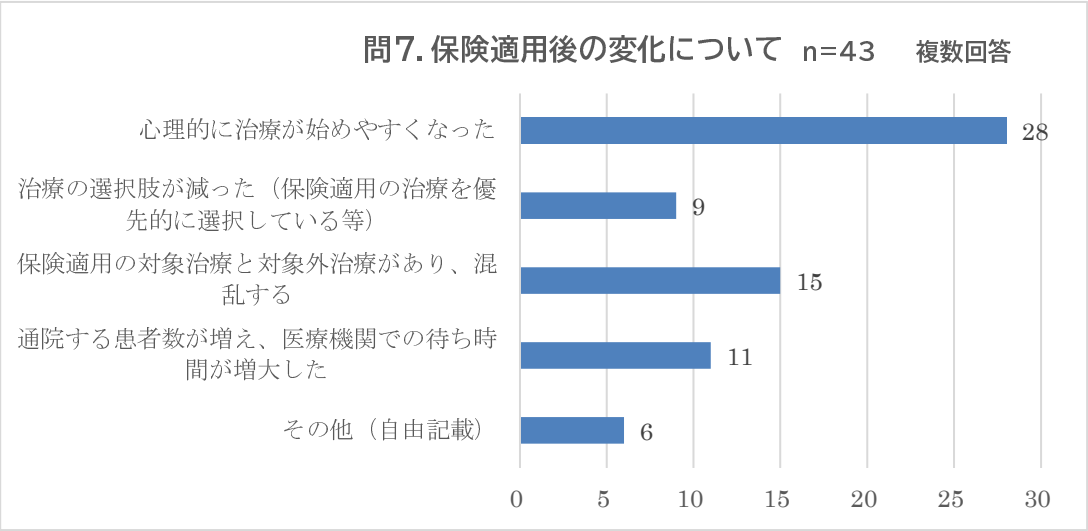
（７）支払った医療費について（保険適用前から治療開始の人のみ）
◎増えたと回答した人が 20.4%、減ったと回答した人が 45.4%を占めた。



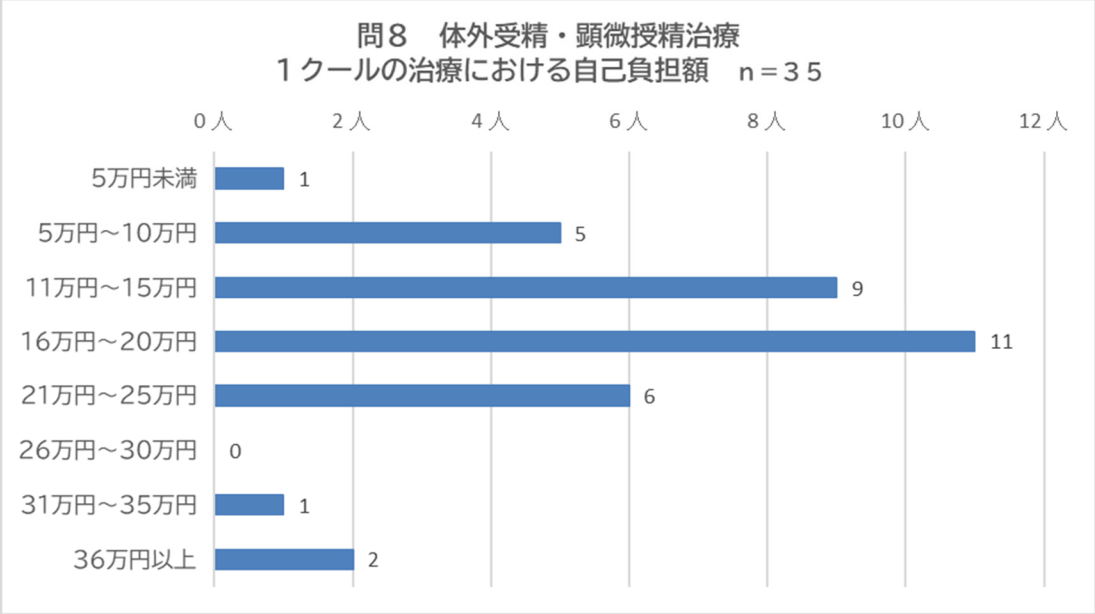
（８）保険適用前後で支払った医療費の変化（保険適用前から治療開始の人のみ）
◎51.2%が減った、23.3%が増えたと回答。



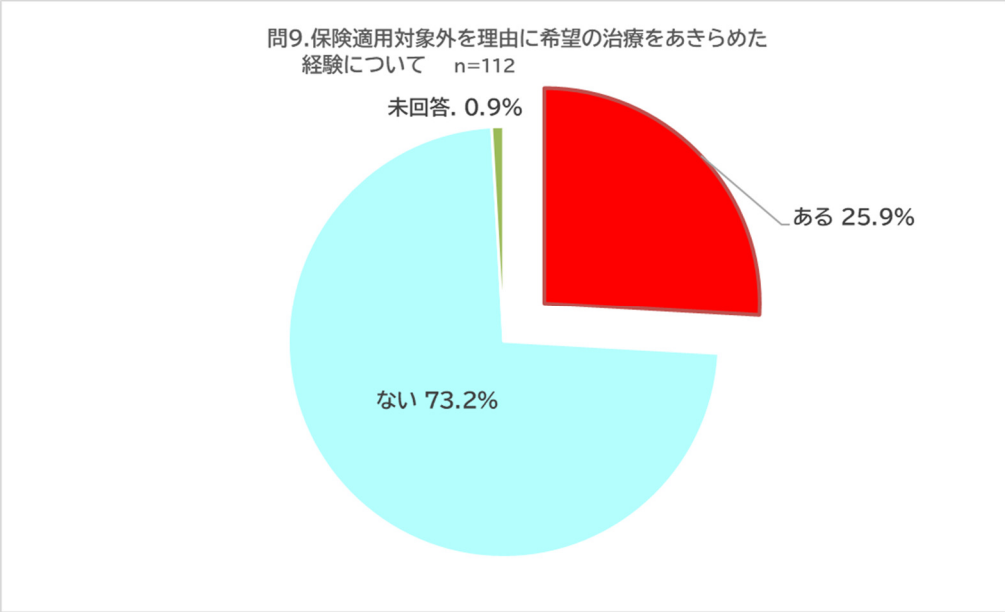
（９）保険適用後の変化について（保険適用前開始の人のみ）
◎心理的に治療が始めやすくなったと回答した人が最も多い。



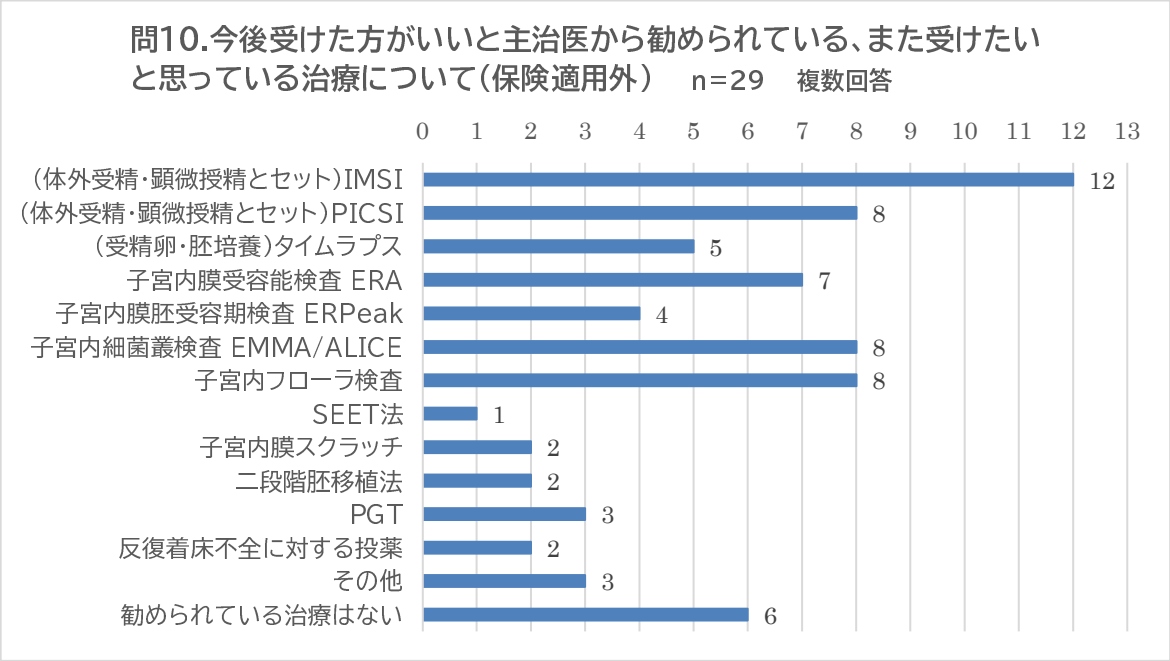
（10）１クールの治療（採卵～妊娠判定まで）の保険適用後の自己負担額
（保険適用後開始した人で、少なくとも１クールの治療を終了した人）
◎自己負担額１６万円～２０万円が最も多い。



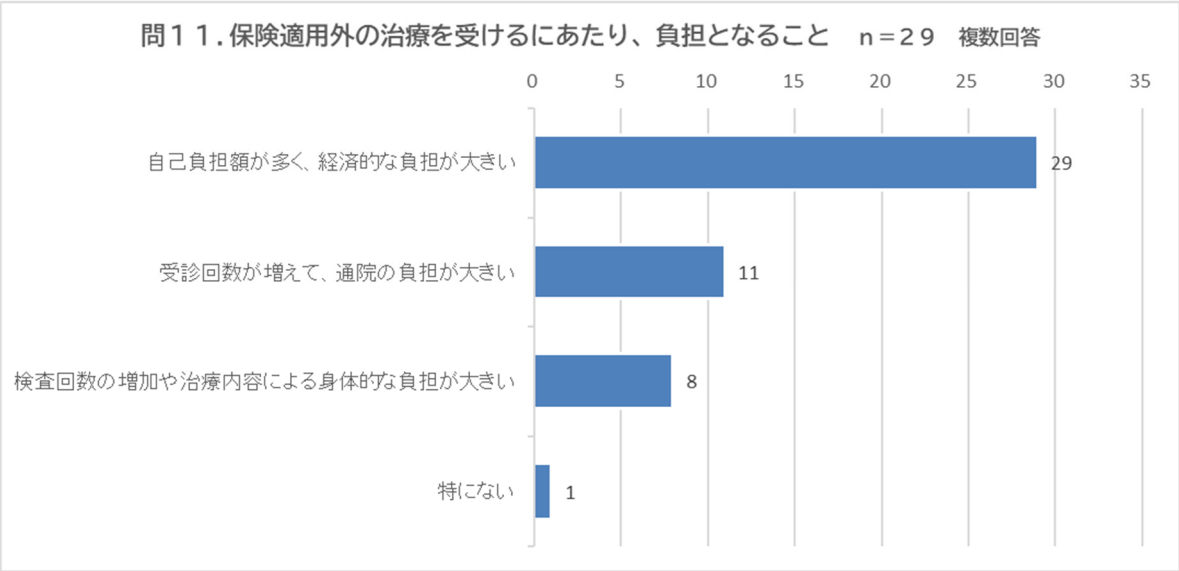
（11）保険適用外であるために治療を諦めた経験の有無
◎26.1%が諦めたことがあると回答。



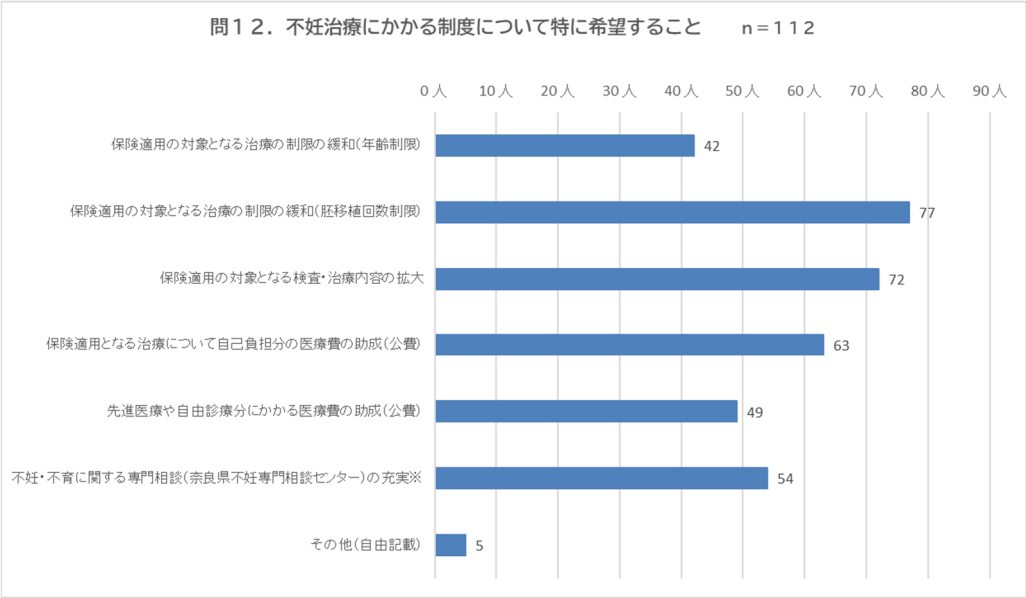
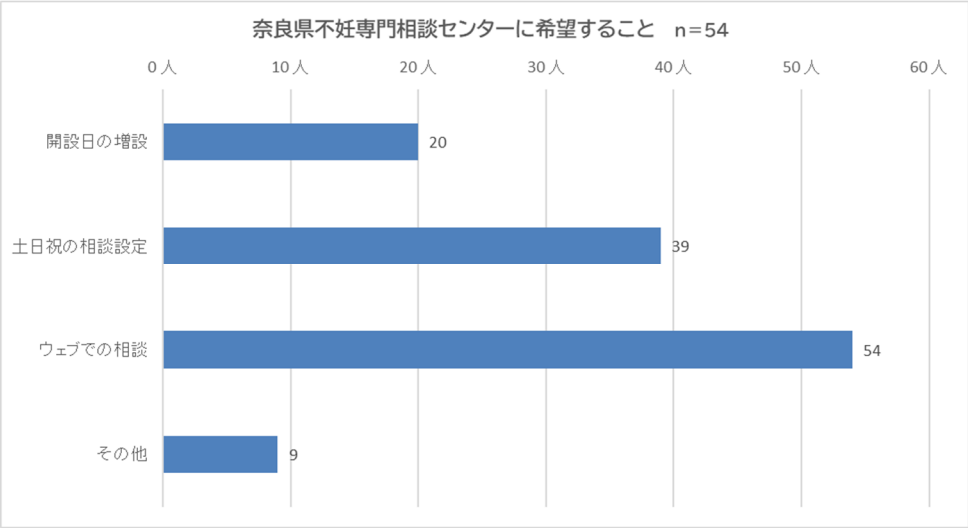
（12）今後受けた方がいいと主治医から勧められている／受けたいと思っている治療
（問９で「ある」と回答した人のみ）
◎IMSI、PICSI、子宮内細菌叢検査、子宮内フローラ検査が多い。



（１３）保険適用外の治療を受けるにあたり、負担となること
（問９で「ある」と回答した人のみ）
◎経済的負担が大きいが最も多く、次いで受診回数増加による通院負担が多い。



（１４）不妊治療にかかる制度について希望すること（３つ以内）



不妊・不育に関する専門相談（奈良県不妊専門相談センター）に希望すること
（上記設問で、不妊・不育に関する専門相談の充実を選択した人のみ）